

ちよぼら

No.33

みんなで楽しく気軽にちょっとずつのボランティア



大堰校区



本郷校区



大刀洗校区



菊池校区

子ども見守り隊隊員募集!

春が来ました。新年度を迎え、元気な子どもたちが登校します。朝夕の見守り活動は健康づくりに最適です。一緒に参加されませんか?

(問合せ先：ボランティアセンター)
TEL 77-4877

ほっこり井戸端サロン

～お茶を飲みながらみんなで楽しく～



第3回(11/30)

「今、地域の中で共に生きる」

ゲスト ひょうたん島店長
森 拓也さん



第3回のほっこり井戸端サロンは、菊池校区の「ひょうたん村」で、福祉サービスを受けながら一人暮らしをされている、森拓也さんをゲストにお迎えしました。

拓也さんは、脳性麻痺による重度の障害があり、車いすの生活を送っています。

約30年前、障害児を受け入れる学校がありませんでした。ご両親は「地域の中でたくさんの方々とふれあうことが大切だ」と地域の保育所や小中学校に拓也さんを通わせました。

小学校で拓也さんはたくさんの方々と囲まれ6年間を楽しく過ごしたそうです。着替えや給食・トイレ・車いす

での移動などはすべて友達がやってくれ、時々手荒いあつかいも、拓也さんにとっては楽しい思い出、と当時を振り返り、「先生や友達の支えがあったから楽しい学校生活を送ることが出来た」と話してくれました。

しかし、楽しいことばかりではなく悲しいことやツライことも、たくさんあったそうです。《施設でなく、地域で暮らしたい》という拓也さん。お互いに迷惑をかけあいながら「ひょうたん村」で人の輪を広げたい・・・拓也さんの笑顔がはじけます。

めだかの菜校 矢永美和

第4回(1/25)

「知り合えて、一緒に何かをすれば友だちになる」

ゲスト ダダイククラブ代表
實藤 俊彦さん

今回のほっこり井戸端サロンは、大堰ダダイククラブ代表として大活躍の実藤俊彦さんをゲストに迎え開催されました。

実藤俊彦さんは、「今日できる事は今日やろう」をモットーに、登山・キャンプ・田植えなど、季節ごとに大きなイベントを開催し、体験活動を通して、子どもたちの健全育成に努めてこられました。

ゲストの活動にみなぎる自信・超人的な行動力の源はどこにあるのだろうか？

強調された言葉の中から、拾ってみました。

- ① 20代から80代までと、会員の幅が広く、先輩・後輩の絆が、極めて強く結ばれていること。
- ② 一人ひとりの考えを大切にし、どんなアイデアも取り上げ、実行に移す努力がなされていること。
- ③ 女性たちの応援・協力が活動の励みとなっていること。
- ④ 会議は夜。時間を度外視して杯をかわしながら、本音で計画を検討していること、等。

ゲストから、ボランティア活動で大切なことは、お互いのコミュニケーションが良いこと、暖かい人間関係、そして男女共同参画が大切であること等、改めて学ぶ機会となりました。

もちのきの会 代表 田中玉喜





私のボランティア日記

はじめての読み聞かせ

佐藤 豊

私は菊池小学校の用務員を10年勤めましたが、70歳の退職を前に司書の先生から子ども達に朝の読み聞かせをされてみてはと「だいくとおにろく」という絵本を手渡されました。朝、授業前の10分間、全教室に放送されるマイクの前で読むということです。生まれて初めての経験だし、震える思いで読む練習を始め、10日間くらいは懸命に頑張りました。

いよいよ放送日の前の朝、放送室の部員さんからマイクの使い方や位置の説明を受けて、とうとう読んでしまいました。途中、司書の先生も気がかりだったと見えて、全教室を回りながら、子ども達の様子を見守ってこられたようですが、早速、わたしのところに来られて「大変良かった、どの教室も子ども達は真剣に聞いてましたよ。」と言われたとき、私の胸の内は

スッキリする思いでした。

それから今日まで「お話しほっとたいむ」の会員として、大洗町の小学校で月1回の読み聞かせをしています。



「朗読ボランティア養成講座」を取材して

“パラペリプルペレポロ…朗読は、発声の練習が大切です”とユーモアを交えて楽しく語ってくれるのは、NHK 福岡放送局チーフアナウンサー 原田徹氏による「朗読ボランティア養成講座」の一コマです。今回初めての試みとして、2月15日(土)と22日(土)の2週にわたって講義をしていただき、20名ほどの受講生が熱心に耳を傾けました。

原田氏は、ボランティア元年といわれる阪神淡路大震災の惨状と復興の状況を世界に向けて報道するにあたり、ボランティアとは何か、あるべき姿とは何か…を考えさせられたそうです。

自分自身のスキルアップのためにも「ボランティアをさせていただく」この気持ちが大切だと熱く語る原田アナ!!

ボランティアに対する強い決意を感じました。

朗読は、作者の訴えたい事や作品の内容をよく理解した上で読まなくてはなりません。そして、発生・発音に留意し聞く人に「わかりやすくしゃべる」ことが最も大切ですと、毎日の発声練習に挙げたのが「パラペリプルペレポロ…」でした。

第2週目は、受講生全員に新実南吉の作品のひとつまを読んでいただきました。受講生の皆さんは初めての経験に緊張しながらもしっかり朗読されていました。原田アナがひとりひとりに適切・丁寧なアドバイスをしてくださり、実りある講座になりました。

取材を終えて

この2回の講座で、ユーモアを交えた巧みな話術と丁寧な指導は、参加者全員が感動し、多くの方が朗読に興味を示されていました。「それが私の生きがいでもある」と語る原田氏に、ボランティア精神の真髄を見たような清々しい気持ちで取材を終えました。

田島 孝三



もうすぐ新年度、春の訪れとともに心もはずみます

編集スタッフ



スマイル

代表 福村 宮 生
福村 千代美
松本 哲 雄
矢ヶ部 美夕紀
田島 孝 三

私のボランティア日記



はじめての読み聞かせ

佐藤 豊

私は菊池小学校の用務員を10年勤めましたが、70歳の退職を前に司書の先生から子ども達に朝の読み聞かせをされてみてはと「だいくとおにろく」という絵本を手渡されました。朝、授業前の10分間、全教室に放送されるマイクの前で読むということです。生まれて初めての経験だし、震える思いで読む練習を始め、10日間くらいは懸命に頑張りました。

いよいよ放送日の前の朝、放送室の部員さんからマイクの使い方や位置の説明を受けて、とうとう読んでしまいました。途中、司書の先生も気がかりだったと見えて、全教室を回りながら、子ども達の様子を見守ってこられたようですが、早速、わたしのところに来られて「大変良かった、どの教室も子ども達は真剣に聞いてましたよ。」と言われたとき、私の胸の内は

スッキリする思いでした。

それから今日まで「お話しほっとたいむ」の会員として、大洗町の小学校で月1回の読み聞かせをしています。



「朗読ボランティア養成講座」取材して

“パラペリプルペレポロ…朗読は、発声の練習が大切です”とユーモアを交えて楽しく語ってくれるのは、NHK 福岡放送局チーフアナウンサー 原田徹氏による「朗読ボランティア養成講座」の一コマです。今回初めての試みとして、2月15日(土)と22日(土)の2週にわたって講義をしていただき、20名ほどの受講生が熱心に耳を傾けました。

原田氏は、ボランティア元年といわれる阪神淡路大震災の惨状と復興の状況を世界に向けて報道するにあたり、ボランティアとは何か、あるべき姿とは何か…を考えさせられたそうです。

自分自身のスキルアップのためにも「ボランティアをさせていただく」この気持ちが大切だと熱く語る原田アナ!!

ボランティアに対する強い決意を感じました。

朗読は、作者の訴えたい事や作品の内容をよく理解した上で読まなくてはなりません。そして、発声・発音に留意し聞く人に「わかりやすくしゃべる」ことが最も大切ですと、毎日の発声練習に挙げたのが「パラペリプルペレポロ…」でした。

第2週目は、受講生全員に新実南吉の作品のひとつまを読んでいただきました。受講生の皆さんは初めての経験に緊張しながらもしっかり朗読されていました。原田アナがひとりひとりに適切・丁寧なアドバイスをしてくださり、実りある講座になりました。

取材を終えて

この2回の講座で、ユーモアを交えた巧みな話術と丁寧な指導は、参加者全員が感動し、多くの方が朗読に興味を示されていました。「それが私の生きがいでもある」と語る原田氏に、ボランティア精神の真髄を見たような清々しい気持ちで取材を終えました。

田島 孝三



もうすぐ新年度、春の訪れとともに心もはずみます

編集スタッフ



スマイル

代表 福村 宮 生
福村 千代美
松本 哲 雄
矢ヶ部 美夕紀
田島 孝 三